



# 学校の窓 2月号

板橋区立板橋第四小学校

HP <http://www.ita.ed.jp/edu/ita4es/>e-mail [ita4es@ita.ed.jp](mailto:ita4es@ita.ed.jp)

## 人間らしく

校長 堀内祐子

東京都教育委員会では、6月・11月・2月を「ふれあい月間」と設定しています。これは、全ての子どもたちの健全育成を目的としたもので、いじめや不登校・暴力などの問題行動の未然防止や早期発見・早期対応のための具体的な取組を重点的に推進する期間です。本校でも、朝会での講話や児童アンケート(SOSシート)などの取組を実施しています。

ところで、ペッキングオーダー理論というのを聞いたことがあるでしょうか。動物行動学の理論の一つで、鶏がくちばしで他を突つく順番のことです。狭い鶏小屋へたくさんの鶏を追い込むと、最初は大騒ぎになりますが、次第に静まって鶏の中に、ある秩序が生まれます。しかし、その秩序は、群れの最上位に君臨し全ての鶏を突つくことができる王様鶏から、自分以外の全ての鶏から突つき回されて決して突つき返すことができない最末端の鶏までの上下関係が生じることで生まれる集団の秩序です。最末端の鶏は他の鶏の全てのストレスのはけ口として突つき回され、1日ももたず全身血まみれになって死に、次にはその上の順位にいた鶏が犠牲になるという循環が起きるというのです。この理論で最近の子どものいじめ現象を説明しようとする学者もいます。

また、他の動物でも、以下のような行動が確認されています。

チンパンジー：若いオスがボスに挑む際や、群れの中での派閥争いで、特定の個体を集団で取り囲んで集団暴行することがあります。餌の分配をわざと与えなかつたり、連携して叫び声を浴びせて精神的に追い詰めたりといった、組織的な攻撃が行われます。

イルカ：オスのグループが特定のメスを囲い込み、逃げ場をなくして体当たりをしたり、尾びれで叩いたりといったハラスメント行為を数日間続けることがあります。また、自分たちの獲物にならない小さなネズミイルカなどを、食べるわけでもないのに集団で攻撃して死に至らしめる「遊び」のような行動も確認されています。

アドリーペンギン：巣作りのための貴重な「石」を、隣の個体から盗む行為が頻発します。エスカレートすると、石を盗むだけでなく、特定の個体の巣を壊したり、複数の個体で一羽を突き飛ばして邪魔をしたりすることもあります。

このような、動物の「いじめ」類似行動は「生存競争」「秩序維持」「教育・訓練」等の生存戦略の一環として説明されます。人間も動物の一種ですので、集団生活を送る中で、「みんなと違うことをする人を排除しようする。(秩序維持)」「自分の優位性を確保するために、弱い人を攻撃する。(生存競争)」などの行動が見られることがあります。

しかし、動物と人間の大きな違いは、人間は「考える」ことができるということです。この「考える」という行動は脳の「前頭葉」が司っています。特に、前頭葉の中の「前頭前野」は「感情のコントロール」「共感能力」「客観的判断」など人間が人間らしく行動するための最も高度な機能を担っています。これらの機能がしっかりと発揮されたとき、前述のような行動もコントロールできるのではないかと思います。この「前頭前野」は一般的に25歳前後まで発達し続けると言われています。つまり、小学生の段階では未完成の状態だということです。しかし、同時に、急激に発達し始める時期でもあると言われています。そのため、この時期には周りの大人が「外部の前頭葉」になってあげることが必要です。

例えば、

- ・感情のラベリング（名前付け）：イライラやモヤモヤした感情を言語化するように促したり、「今、『悔しい』と思っているんだね」と代弁したりしてあげる。
- ・「ちょっと待つ」：欲しいものを少し待ってから手に入れる、順番を守るといった日常の小さな我慢をさせる。
- ・読み聞かせと対話：物語を読んで「このとき、主人公はどう思ったかな？」「自分だったらどうする？」と問い合わせることで、他者の視点に立つ回路を刺激する。
- ・未来予測：「もし、友達に『○○○』などの言葉をかけたら相手はどうすると思う？」など、問い合わせることで、よりよい方法を考えさせる。などです。

ただし、大人が疲れていたり、感情をコントロールできなかつたりする状態では、大人自身の前頭葉も働かなくなっています。「外部の前頭葉」になろうとするときは、大人自身が余裕をもち、子どもの心理的安全性を確保しながら、「未完成の子どもたち」の「人間らしい」成長を促していきたいものです。